

2014 7月のビオトープ-2 ～ 職員研修 ビオトープ ～



ビオトープができて、5年目の夏を迎えました。「いこいの池」がビオトープとして生まれ変わり、子ども達にもビオトープの意義が浸透してきました。

今年は、環境委員会ができたので、児童朝会の発表を通して、その意義や約束を含めて全校に伝え、つないでいくつもりです。そうすれば、6年生がペア学年である1年生に知らせていくのではなく、児童全体の共通理解

もできるのです。(委員会発表は2学期の予定)

2011年・2012年と日産の理科教育の助成金をビオトープ再生資金とさせていただいたこともあり、これまでも教職員研修には力を入れてきました。今年度は特に、大規模な教職員の異動があり、改めてビオトープの意義や環境教育の教材としての知識を伝えていく必要が生まれたため、今年度は2年ぶりに環境教育の教職員研修を行ないました。

そこでは、

<研修1>「ビオトープの意義・植物について」を青砥浩二さん(NPO自然保護協会副理事)・長岡恂さん(厚木植物会 会長)よりご講義をいただきました。本校のビオトープが絶滅危惧種の危機分散の地であること、それを大事にする子どもたちの育成のための良い教材になるとのお話をいただきました。

<研修2>「ビオトープの生きものとして」槐 真史さん(厚木市郷土資料館学芸員)より、図鑑の見方や・調べ方のご講義をいただいたあと、実際にビオトープの生きものを採取してその生きものがある意味についてお話いただきました。

本校のビオトープには、良い教材となる生きものがまだ少ないようで、生きものから環境指標を見いだすには難しいようです。一定の生きものがたくさんいる環境ではなく、多種多様な生きものが入ってくる環境を作る必要性があることがわかりました。

そのためにはどうしたら良いかを今後も専門家の方と一緒に考えていくことができればと思います。また、研修をおこなって教職員の研鑽を積みたいと思います。

